

政治分断下の経済展望

東信倶楽部 エコノミストが講演



2025年の経済を展望する
森田京平さん＝多治見市
虎溪山町、とうしん学び
の丘エール

東濃信用金庫(多治見市)の取引先の経営者でつくる東信経済倶楽部の新春講演会が21日、同市虎溪山町のとうしん学びの丘エールで開かれた。野村証券チーフエコノミストの森田京平さん「中津川市出身」が「問われる政治的分断の下での経済成長」をテーマに今年の経済を展望した。

森田さんは、多くの国が強力な政治の変革圧力の下にあると言及。トランプ米大統領の経済政策では、高関税率の適用で輸入品など物価が上がって米国民の負担が高まると指摘した。移民の強制送還は深刻な人手不足と財政コストの増加を招くため簡単ではないと推

察。一方、「脱・脱炭素」の方針で化石燃料の生産が増えればエネルギーコストが低減、物価上昇を抑えられる面があると分析した。

今年の日本経済を「値上げ、賃上げ、利上げのある普通の経済に向かいつつある」と見通した。日本企業が近年、ソフトウェア投資を急増させていることを挙げ「人手不足に対し、賃上げと人への依存度を下げる対応を同時に取っている。本気で変わる可能性があり、投資価値があると受け止められている」と語った。講演会は454回目で、約100人が耳を傾けた。

(小森直人)